

基本構想実施計画における指標について

1 指標の考え方

基本構想に掲げた将来像については、3年を計画期間とした基本構想実施計画と、毎年の予算編成と結びついた具体的な事務事業により実現していくものであり、実施計画を中心にPDCAサイクルに沿った進行管理を行っていくことが重要となります。

指標は、実施計画の各項目の「将来像」又は「実現に向けた基本的取組」の実現度を測定できるもので、進行管理を行う“ものさし”であり、施策の着実な進行を、指標を通して管理することで、基本構想の理念の着実な実現を目指すものです。

2 活動指標と成果指標

- ・ **成果指標** 区が実施した事業の**成果**を測る指標（アウトカム指標）
例 刑法犯認知件数、セミナー受講者の満足度
- ・ **活動指標** 区が実施した事業の**活動量**や**活動実績**を測る指標（アウトプット指標）
例 事業の参加者数、

実施計画においては、「成果指標」を設定することを原則としますが、設定が困難な場合（測定不可能など）は、「活動指標」を設定します。

また、「成果指標」でも区が施策や事業を実施することにより、その成果と直接的に関連するものを原則としますが、区の事業だけでは達成できないもの（国や都の施策、区民やNPOなど他の主体との協働により達成ができるもの）であっても指標として適当であれば、設定します。

指標の優先順位

優先順位 1	成果指標で、直接的に区の施策・事業と成果が関連する指標 例 施設利用者の満足度
↓	
優先順位 2	成果指標で、区の事業だけでは達成できない指標 例 交通事故死傷者数
↓	
優先順位 3	活動指標 例 商店会加入数、施設利用者数

3 数値の設定

計画期間における現実的な数値をもとに、年度ごとの客観的な評価を行い、計画事業を実施していくことで、最終的に基本構想の実現につなげていくという趣旨のもと、指標の数値は、設定しています。

なお、継続性を持った指標設定が望ましいものですが、増大する行政課題に対し、柔軟かつきめ細やかに対応することを目的として3年間ごとに新たな実施計画を策定し、指標そのものもそれに伴い、見直しをしていくものです。

したがって、上記の優先順位に照らし、より有効な指標がある場合には、見直しを行うこととし、現指標が新指標案に比して同程度又は有効である場合には、現指標を維持することとします。